

平成26年度「全国学力・学習状況調査」における 赤崎 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・算数A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・算数B】
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※ 本校の6年生は、単学級ですので、個人が得点されるような公表の方法については、配慮しています。

赤崎 小学校「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、算数A・B)結果

(資料) 本市・全国の結果【平均正答率】

		国語A	国語B	算数A	算数B
平成24年度	本市	79.4	52.2	70.4	56.1
	全国	81.6	55.6	73.3	58.9
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4
平成26年度	本市	69.1	52.6	76.2	55.4
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と比べ、上昇している。 ・複数の事柄を並列の関係で書くなど、書く力を問う問題に課題がある。
	よくできた問題	・話し合いの観点に基づいて情報を関係づける問題の正答率が全国を上回った。
	努力が必要な問題	・国語辞典を使って、言葉の意味と使い方を理解する問題についての正答率が低かった。

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と比べ、かなり上昇している。 ・文章の内容について、根拠を明確にして、自分の考えを書く問題に課題がある。
	よくできた問題	・二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く問題については、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く問題は、正答率が低く、無解答率が高かった。

算数A	全体的な傾向や特徴など	・基礎的・基本的な力が少しずつ身に付いてきている。問題に対して、粘り強く取り組むことができるようになってきた。
	よくできた問題	・四則計算に関する問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・単位量あたりの大きさを求める問題だけが、無解答率が少しあった。

算数B	全体的な傾向や特徴など	・量と測定に関する問題について正答率が低く、また、無解答率が高かった。
	よくできた問題	・示された場面から基準量と比較量を捉え、何倍かを求める問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・示された情報をもとに、条件に合う時間を求める問題の正答率が低かった。

③ 学校での学習状況に関する調査結果

⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

・A問題は、国語科、算数科ともに、無解答の児童が減ってきている。問題に対して、粘り強く取り組む児童が増えてきた。

・算数科A問題は、昨年度と比べ上昇している。基礎的・基本的な内容が確実に定着しつつある。特設の時間を使って、過去問題やアシストシートに取り組んだ成果が表れてきている。

・算数科B問題に関しては、応用問題に対して、身に付けた基礎的・基本的な力を発揮することができていない。学習した内容が日常生活など、どこかの場面で使えることができるのかを考えさせる必要がある。また、学習したことを忘れないように、くり返し、授業の導入場面で使っていく必要もある。

・自分の考えを説明したり、書いたりすることに抵抗感を持っている児童が年々増加する傾向にある。自分の考えをしっかりと整理する時間を確保して説明させ、言葉でまとめる活動を多く取り入れる必要がある。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

・家で学校の宿題をしている児童の割合は、全国とほとんど変わらなかったが、1時間以上家庭学習をしている児童の割合は変化が見られず課題が見られる。また、家庭学習の絶対量が少ない。具体的な取組を指導したり、啓発したりする必要がある。

・自分で計画して勉強している児童の割合も全国より大きな差があり、年々、減少傾向にあることも課題である。また、学校の授業の予習や復習をしている児童の割合もやや低い。

⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

・将来の夢や希望をもっている児童、友達との約束を守っている児童は、全国と同じくらいいる。

・テレビを見る時間、ゲームをする時間、携帯やスマートフォンを扱う児童の割合が、かなり、増加している。テレビ、ゲームにおいては、2時間以上と答えている児童が多かった。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 学力向上のための特設時間の実施
 - ・朝自習の時間に「赤崎タイム」を設定している。
 - ・月、水曜日は、計算スキル・漢字スキル。火、金曜日は、書く活動と算数プリント。木曜日は、読書としている。
 - ・各学年、算数科は、単元別のプリントを担当及び少人数指導教員が準備をしている。
- ◎ 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用
 - ・夏休み、冬休みに宿題とし、答え合わせ、やり直しを行っている。
 - ・1～5年生については、1月のCRTに向け、アシストシートを朝自習や宿題で活用している。
- ◎ 「書くこと」を習慣化
 - ・全学年でノート指導の統一化を図っている。
 - ・どの教科も自分の考えを書くことを習慣づけたり、学習の終わりに必ず感想を書かせたりしている。
- 算数科において、学習した内容を授業の導入場面で、くり返し使っていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 宿題のスタンダード化
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」を活用している。
 - ・夏休み、冬休みの宿題に、過去問題やアシストシートを活用している。
- 宿題のスタンダード化の中で
 - ・家庭学習時間の設定について呼びかけていく。
 - ・自学ノートを活用していく。
- 全国学力・学習状況調査、CRTの課題と取組を保護者へ周知
 - ・学校だよりや学校ホームページで知らせていく。